

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 徳島県立鴨島支援学校 】

1 実践テーマ	I・II・(III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学部1年2名, 3年2名, 4年2名, 5年3名, 6年2名 中学部1年3名, 2年1名, 3年2名 高等部2年4名, 3年2名 吉野川市職員労働組合 14名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育・総合的な学習の時間) ② 行事名 (ふれあい交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい交流会」で、児童生徒が地域の方々との「ボッチャ」競技等を通して、お互いを尊重し合い、理解し合う「インクルーシブな社会（共生社会）」の構築に寄与する。 ・「ボッチャ」のルールを学んだり、競技の楽しさを味わったりすることを通じて、パラリンピック競技を始めとするスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ心を育成する。 ・パラリンピック競技「ボッチャ」体験を通して、パラリンピック競技の理解・啓発や東京オリンピック・パラリンピックへの学びや関心をさらに深める。
5 取組内容	<p>(1) ボッチャの楽しさを広めよう</p> <p>児童生徒が既に取り組んでいるボッチャの楽しさを味わい、自分たちだけでなく地域の人に発信していくことや、ボッチャがパラリンピックの競技の一つであり、パラリンピックを盛り上げることについて学習を進めた。</p>





(2)「ボッチャ」をしよう

小学部、中・高等部の体育の授業においてボッチャを実施した。各学部において、児童生徒の実態に適した方法（立位で自分で投げる、車イスに座って自分で投げる、補助具を使って転がす等）でできるよう工夫した。回数を重ね、ルールを理解したり、楽しさを味わうことができた。

体育の授業以外にも、総合的な学習（探求）の時間に「ボッチャ大会」を実施したり、昼休みにも活動したりすることで、ボッチャ競技の際に高得点を捕る技術を高めることができた。

また、ふれあい交流会への期待感を膨らませることができた。



(3)「ふれあい交流会」

本校の児童生徒が吉野川市職員労働組合の方々との交流会で、毎年実施している学校行事であり、地域の方々と交流することにより、本校の児童生徒の理解と地域への協力を啓発することを目的としている。

今回、ボッチャを一緒に実施することで、その楽しさを発信していきたいと考え計画を立てた。

ボッチャをすることを事前に知らせておいたところ、ホームページで確認してきたと仰ってくださる方もいた。

当日は、5グループに分かれ、職員の方とペアを組み、トーナメント戦で実施した。

ボールを投げる方向や力加減を相談したり、本校教員手作りのランプスを使う者は、職員の方が方向や角度を考えて変えたりしていく等、力を合わせて取り組む姿が見られた。どのグループも大変盛り上がり、白熱したゲームとなった。大変有意義な交流の活動となり、ボッチャ発信の良い機会となった。



(4) 「ふれあい交流会」を振り返ろう

「ふれあい交流会」当日の写真を数枚プリントアウトをして模造紙に貼っていった。振り返ることで他のグループの活動の様子が分かったり、児童生徒から「運動会でやってみたい」「来年も絶対ボッチャをしたい」「職員の方にボッチャの楽しさを味わってもらえたと思う」「普段と違うメンバーで行うことで作戦の立て方が変わりとても面白かった」等の意欲的な感想を聞くことができた。



<p>6 主な成果</p>	<p>○ボッチャに継続的に取り組むことで、ゲームの楽しさを味わったり、ルールを理解したりしていくことができた。</p> <p>○回数を重ねていく中で、ボッチャのゲームそのものに対して自信を持って取り組むことができてきた。</p> <p>○ボッチャを通して、職員の方々と協力し合って一緒に楽しむことができた。</p> <p>○職員の方々へのアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャの競技に興味が持てましたか？ ・ルールはわかりましたか？ ・「東京オリンピックパラリンピック」への興味・関心が高まりましたか？ <p>の質問に対して全員から「はい」の回答を得た。</p> <p>また、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったより難しかったが、とても楽しい競技だとわかった。 ・生徒の皆さんと作戦を考えながらできて、とても良かった。 ・また機会があれば対戦したい。 ・今後も交流会を通じて相互理解を深めていきたい。 ・パラリンピックを盛り上げたいという気持ちになった。 <p>等の感想をいただいた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○「ふれあい交流会」は長年続いている地域の方々（吉野川市職員）との交流活動の場であり、本校児童生徒への理解を地元の方々が深めることができる貴重な行事である。今回、この交流会を通してボッチャを知ってもらい、楽しさを味わってもらおうと共にパラリンピックへの関心を高めるといふ地域への発信の機会となった。</p> <p>○児童生徒の実態に合わせて、ランプスを本校教員が全部手作りで完成させ、本校独自のランプスを作った。使いながら改善し、本当に児童生徒に合ったランプスが完成した。適度な方向や角度に設定できるように作られており、児童生徒は十分力を発揮できた。</p> <div data-bbox="593 1361 1273 1733" data-label="Image"> </div>
<p>8主な課題等</p>	<p>本校には隣接する病院に入院している児童生徒（病棟訪問生）も在籍しているが、その児童生徒は病状から学校に来て一緒に活動することは難しい。</p> <p>今回、病院との回線をつなぎ、学校での活動の様子をiPadで撮影しながら病棟訪問生に送り、向こうの様子も同時に確認できた。この試みは初めてであり、間接的にはあるが病棟訪問生もボッチャの発信に参加することができた。</p> <p>今回のことを踏まえて次回の参加の方法を検討していきたい。</p>

9来年度以降の
実施予定

児童生徒の実態に合ったランプスを作る等支援の方法を工夫していくことで、競技に参加でき楽しむことができる。

今回限りに終わらず、今後も引き続きこの交流会を通してボッチャを広めていきたい。

また、参観日に保護者と一緒に活動したり、運動会の競技にもボッチャを取り入れ、交流校（地域の小・中・高校の児童生徒が競技に参加）にも発信していきたいと考えている。小学部の児童が交流校に行った時には、小学校の体育館でゲームをすることもできる。

本校は「ふれあい交流会」の他、地域の方々と学校周辺の「オリエンテーリング」を実施する等地域との関わりが深い。この地域とのつながりを大切にして、本校に招いて「ボッチャ」を実施する等も考えていきたい。

児童生徒の実態（病状）も考慮しながら、児童生徒自身が楽しんで地域に発信し、開催まで残り半年となったパラリンピックへの関心を高めていけるよう進めていきたいと考えている。